

県外派遣報告書

審判員名	村上 翔	所属	U12		
大会名	令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会				
期間	令和5年6月3日(土)				
会場	アダストリアみとアリーナ				
スケジュール					
期 日	内 容	場 所			
6月1日(木)	審判会議、開講式	オンライン			
6月3日(土)	大会1日目	アダストリアみとアリーナ			
会議 講義 内容					
<p>●東京都バスケットボール協会 S級審判員 東 祐二 氏より 映像などが多く出回っていて情報を得ることが比較的容易な現代において、いかにアウトプットしていくかが重要である。「知っている」状況から「判定できる」状況へしていく。 アウトプットの阻害要因を外的面(準備段階など)や、内的面(過度のこだわり、過緊張など)から分析して防ぎ、自信や勇気、適度なリラックスをすることでアウトプットできるようにしていくことが必要である。</p> <p>●栃木県バスケットボール協会 S級審判員 増淵 泰久 氏より 映像の用い方には、工夫が必要である。現場での印象や求められていることなどの現場でしか感じられないこともある。個性や表現、考え、コミュニケーションなど映像には映らない部分があることを理解する。 一方で、メカニクス(=判定するための道具)は、映像で客観的に見ることができるので、活用していく必要がある。</p> <p>●栃木県バスケットボール協会 S級審判員 大山 賢史 氏より 審判活動の中で具体的にになりたい姿を目標設定し、振り返りを繰り返すことが大切である。試合を担当して、できたことや失敗したことを書き留めておくことも効果的である。さらに、日々指導してくれる人のもとへ足を運んだり、自分の理想とする人を決めたりすることも成長へ繋げることができる。 また、家族や職場の信頼を得ることや、スケジュール管理を徹底することも活動する上で重要である。</p>					
実技					
担当試合	期 日	6月3日(土)	男子	Bブロック1回戦	
	対戦カード	湘南工科大附(神奈川)	VS	水戸工業(茨城)	U2
	相手審判	CC: 大木 裕一 氏(山梨) U1: 塚田 和稀 氏(栃木)			
ミーティング内容		主任	小澤 朋克 氏		
<p>クルーでメカニクスの基本的なことや、チームの情報を確認してから試合に臨んだ。 オールコートでディフェンスが仕掛けるケースがあり、その際にトレイルとセンターの距離が遠くなってしまうことがあった。プレーとの距離やアングルを気かけ、判定に繋げる必要がある場面があった。また、試合を通じて、リバウンドやスクリーンに関して、クルーで気にかけているものの、一貫した笛を入れ続けることができなかったことも課題となった。 TO管理については、クルーで意識して訂正に繋げることができた。</p>					
全体の感想					
<p>はじめに、大会の開催にご尽力いただきました茨城県協会の皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。 大会へ参加させていただき、プレゼンテーションが特に課題だと感じました。注目の浴び方や、力強さ、声の使い方、手の挙げ方ひとつにしても、もっとこだわりを持って表現する必要性を感じました。プレゼンテーションを工夫することで周りに伝わりやすく、試合を円滑に進めていくことにつなげていきたいです。そのためには、日頃から高い意識を持って取り組み、良い習慣を身に付けたいと思います。 今回の経験を今後の活動に生かしていくと共に、還元できるよう精進して参ります。</p>					